

## 令和 4 年度 (2022) 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文 : CTA-Japan 物理研究 英文 : CTA-Japan Physics Research
研究代表者	井岡 邦仁
参加研究者	中森 健之 山形大学 理学部 物理学科 井上 芳幸 大阪大学 大学院理学研究科 大平 豊 東京大学 大学院理学系研究科 森 浩二 宮崎大学 工学部 電子物理工学科 浅野 勝晃 東京大学 宇宙線研究所 チェレンコフ宇宙ガンマ線グループ 山崎 了 青山学院大学 理工学部 物理・数理学科 郡 和範 高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 井上 進 理化学研究所 片桐 秀明 茨城大学 理学部 高エネルギー宇宙物理グループ、他、全 124 名
研究成果概要	<p>CTA 全体の中で CTA Japan PHYS が存在感を発揮し続けるためには (1) CTA Japan PHYS の強い分野の継続的な維持 (2) 弱い分野の補強 (3) 新たな分野の開拓、を行う必要がある。そして実際の観測が出てきたときに、世界に先駆けて CTA Japan がサイエンスを率先する体制になっていないといけない。それには戦略が必須である。CTA Japan PHYS のメンバーが集まって、限られたマンパワーの中で誰が何を行うのが最も効果的なのかをテーマを決めて集中的に議論することが重要になる。</p> <p>本研究は PHYS での集中的な議論を行い、最終的に CTA による物理全体へのインパクトを最大限にすることを目的とする。具体的に行った活動は以下である：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. CTA Japan 会議の開催 科研費基盤 S 研究会・宇宙線研究所共同利用研究会「高エネルギーガンマ線でみる極限宇宙 2022」において海外も含む一流の研究者を招待し講演をしてもらった。</li> <li>2. 物理学会、天文学会 物理学会、天文学会に参加し、情報収集、議論を行った。</li> <li>3. 招待講演などでの発表 機会があるごとに、CTA の話をして、議論を行なっている。例えば、GWPAW 2022 に行き、CTA による重力波天体の観測可能性について議論した。</li> </ol>
整理番号	E10